

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
丹波篠山市立今田幼稚園・今田保育園在り方検討委員会
- 2 開催日時  
令和4年6月11日（土）13時30分から16時00分まで
- 3 開催場所  
今田まちづくりセンター 集会室ほか
- 4 会議に出席した者の氏名  
委員長 酒井隆明  
副委員長 丹後政俊、大前通代  
委員 小田和也、大西和夫、長谷川正、松本良子、横内里絵、上田勲、藤森美香、  
婦木佑季、野々口竜己、谷掛晴子、竹中富士子、市野達也、橋元工  
オブザーバー 大上和則  
事務局 丹波篠山市教育委員会事務局こども未来部長 稲山悟、こども未来部次長兼  
保育教育課長 西嶋睦美、市民生活部地域振興課長（今田地区振興担当）森  
本康幸、子育て企画課長 竹見朋子、保育教育課長補佐 森田育樹、管財契  
約課営繕係長 田中健
- 5 傍聴人の数  
0名
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別  
全て公開
- 7 非公開の理由  
該当なし
- 8 会議資料の名称  
第3回丹波篠山市立今田幼稚園・今田保育園在り方検討委員会資料

## 9 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 報告事項  
第2回検討委員会の会議録について
- (4) 協議事項
  - ア 候補地検討経過の確認
  - イ 候補地の現地確認（市バス）
  - ウ 現地確認後の感想、意見交換
- (5) 次回の開催日
- (6) 閉会

## 10 協議の概要

現地確認後の感想、意見交換について

(事務局)

候補地4案「D案 森のたあみなる（市有地）」「H案 今田テニスコート」「I案 森のたあみなる（民有地）」「J案 辰巳グラウンド」の現地確認を行っていただいた。この中から適地を選定願う。

それでは4つの案について、意見等願います。

(委員)

「I案 森のたあみなる」について、地権者の方は何人おられるか。

(事務局)

森のたあみなるについては、すべて用地を取得させていただいたとして、地権者は2名となる。

(委員)

基本的なことだが、この検討委員会で候補地を絞り切るといふことか。諮問を受けているわけでもなく、どれだけの拘束力があるかわからない。検討委員会には、それぞれの分野の専門家がおられるが、その意見を踏まえ市として総合的に判断して場所を選定するのも一つの方法ではないか考える。

それ以前に、私は様々な機会に今田保育園・今田幼稚園の安全の確保について、質問や意見をしてきた。私としては、この課題をはじめに提案した者であると自負している。その中、認定こども園の建設について、市行政で取り組んでいただいていることについて感謝する。しかしながら、場所の選定をこの検討委員会で決めて、それを議会等へ提案するということになるのであれば、そこまで責任は持てないと思う。最終的に市で決めるということで認識を共有したいと考える。

(委員長)

検討委員会で適地を選ぶために会議を実施してきたわけであり、検討委員会で適地を選ばず、市が選ぶということはしない。検討委員会として適地を選ぶ。検討委員会には、市長、教育長、地域の方や関係の保護者、園長もおられ、地域や市民の方の意見を十分聞いたうえで、市と一緒に適地を選ぶ方法は意義があると思う。

市の意思決定としては、最終、市議会の議決が必要であるため、絶対的なものとは言えないが、決めた後に特別な事情で計画どおり進めることができない場合もあると思うが、こうやって決めたことに関しては市議会も最大限尊重していただけたと思う。検討委員会で決めることは大変良い決め方であるため、ここで決めていきたいと思う。

(委員長)

それでは、協議を進める。はじめに「J案 辰巳グラウンド」について、場所としては環境も良く、イエローゾーンからも外れているが、保護者の意見では、文教地区の中心から外れており、道も狭いという意見もあったがいかがか。

(委員)

辰巳グラウンドまでの道を広くするとか、こども園専用の道路をつくるなど、地形的には難しいのか。今ある道を使っていくことになるのか。

(委員長)

道を拡張するのは難しいと考える。

(委員)

辰巳集落との話し合いは、何回かされたのか。また、集落の反応はどのようなものであったか。

(委員長)

辰巳グラウンドについては、野球関係者が使用されており、月1万円程度で使っているとのことであった。グラウンドの貸出にあたっては、数か月、半年ぐらい前に申し入れをすれば、グラウンドをこども園の用地として使用することは可能だろうとのことであった。

(委員)

集落とすれば手放しで良いという雰囲気であったのか。

(事務局)

こども園の候補地として辰巳グラウンドが提案された際、市職員が自治会長にお伺いをさせていただいた。その際、候補地として挙げるのは構わないとの承諾を得たが、自治会内で具体的な説明はされていない。

(委員)

環境を見ると子どもたちには良いと思う。ただし、園舎に行くまでの間で対向車、朝方の車が集中する時間帯における集落の方々との兼ね合いをどうするか。そのことが解消できれば、場所として良いと感じた。

(委員)

以前にほかの委員から話しがあったが、文教地区としては小学校、中学校、こども園の連携を図るうえで課題があると感じた。また、土地取得にあたり、多くの地権者があり、土地を買い求めるとなると相当の期間が必要となることからすると難しいと考える。

(委員長)

保護者の送迎と地域の方の生活との関係については、他の園等でも問題になっているところである。また、今田の中心から離れることや工期そのものに時間がかかる等問題がある。送迎においては、行き帰りの道を指定する、看板を立てるなどの対策はあるが、道路の拡張等は難しいと考える。さらに、土地取得に向けて非常に時間がかかる。

(委員長)

次に、D案の森のたあみなる（市有地）について意見を伺う。課題として、代替駐車場をどう確保するかが課題であったが、ある程度の確保は可能ということであった。

(委員)

イエローゾーンに一部かかっているということはわかっていたが、現地を確認したところ、イエローゾーンの面積が意外に広いと感じた。私はD案が良いと思っていたが、現地調査でイメージが変わった。ここは厳しいと思う。

(委員長)

それはイエローゾーンが広いからということか。

(委員)

そのとおりである。

(委員)

イエローゾーンにかかっているということは、何かあったら必ず避難するということか。

(事務局)

イエローゾーンに指定されている区域にある施設においては、土砂災害から生命等を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように体制を整備するなど、ソフト的対応を求められる。なお、レッドゾーンでは、ソフト的対応はもちろんだが、新しく建物を建てる時に擁壁を建てる、頑丈な建物にするなどの設備面での対応も求められる。

(委員長)

建設にあたっては、イエローゾーンを外していくという方向で検討していく。

(委員)

ハザードマップを見ると、イエローゾーンの一番上に砂防堰堤があるが、砂防堰堤があってもこれだけの被害が想定されるのか、無しの場合はどうなのか。

(委員長)

確認するが、砂防堰堤が設置される現状において、イエローゾーンの区域が示されていると考える。

(委員)

イエローゾーンを外して園舎を建てていきたいというのはよくわかるが、法面の強度や土質調査はどのような方法ですか。

(事務局)

土質調査（ボーリング調査）を実施する。建築基準法や兵庫県条例において、がけ地の基準があり、法面の一番下から30度ラインで30度より下に基礎が入っていなければならないほか、崖の高低差の中心から一定距離を離すこと等の基準がある。安全性の確保にあたり、基準に合わせて建築することとし、現地の土質調査等を踏まえ法面の状況等を見て考えていく。

(委員)

保護者の立場からすると、できるだけ早く園舎ができてほしいが、イエローゾーンを外して、崖の方に園舎をもっていく場合、土地の補強が必要になれば、工期が延びる可能性があると思うが、それを見越して2.5年の工期となるのか。

(事務局)

断言はできないが、傾斜はきつくないものの補強工事が必要となった場合、経費が増加し、工期も延長されることになるが、工期を大きく延長することはないと考える。

(事務局)

D案については、駐車場だけでなく敷地内のカリオン（鐘）の場所も敷地としたいが、基準を満たす範囲で崖から離していくことになる。

(委員)

敷地をいっぱい使った場合、イエローゾーンに園舎はかからないのか。

(事務局)

すべてをイエローゾーンから外すことは難しいと考える。職員室や調理スペースはイエローゾーンに掛かるが、0～5歳の保育室、遊戯室など子どもたちが普段過ごすところは、イエローゾーンから外した配置を考えている。

補足説明として、イエローゾーンの中に新しく建物を建ててはいけないということはなく、イエローゾーンの中でもこども園を建てることは可能ではある。ただし、安全面を配慮してイエローゾーンからできる限り外していくという提案になっている。

案として配置図を示しているが、工夫した園舎配置に努めていきたいと考える。

(委員長)

次に「I案 森のたぁみなる（民有地）」について、意見を求める。

森のたぁみなる（民有地）を考える場合、農振農用地の除外をできるかどうかが課題となる。除外できたとしても時間がかかるため、非常に難しいと考える。

(委員)

「D案 森のたぁみなる（市有地）」において、イエローゾーンを考慮した園舎の配置がで

きるのであれば、無理して民有地を買う必要はないと思う。

(委員長)

次に「H案 今田テニスコート」について意見を求める。H案は、砂ぼこり対策として芝生化するほか、ボールの飛び込みがあるため防球ネットの設置が必要となりその経費が高額となる。また西日が園舎を直撃するということもある。

(委員)

今の計画にこだわると西日の弊害があるが、グラウンドの境界線側に園舎をもっていくと、ボールが飛んできて屋根にあたり、子どもたちに直接被害を及ぼすことはないのではないか。しかしながら、この場所においては、西日や吹き上げの風による砂ぼこり、ボールの飛び込み、がけ地条例の遵守等、デメリットが強調されていると感じる。

(委員)

率直な意見として、豊かな自然に囲まれている場所であるにもかかわらず、安全面を確保するために高いネットに囲まれるのはどうかと思う。土地を生かした場所を選んでどうか。

(委員長)

テニスコートであれば、建設に問題ないと思うが、高い防球ネットに囲まれることや吹き上げによる砂ぼこりがある。

(委員長)

それぞれの案について意見交換を行ったが、ほかに意見等ないか。

(委員)

まだ迷っている。私は辰巳グラウンドが良いと思う。森のたあみなる（市有地）は、イエローゾーンが気になる。

(委員)

私も辰巳グラウンドが良いと思う。送迎に係る安全面問題などは仕組みを考えれば何とかなると思う。

(委員)

辰巳グラウンドは環境的にはベストで、古市地区からも近い。送迎等の安全確保に課題があるとするのであれば「D案 森のたあみなる（市有地）」になるかと思う。

(委員)

「辰巳グラウンド」か「森のたあみなる（市有地）」が良いと思うが、それぞれ課題があるため、他に適した場所があればと思う。

(委員)

4つの案には、それぞれ一長一短があるが、完成までの期間を考えれば「D案 森のたあみなる（市有地）」と思う。

(委員)

現在の保育園は、イエローゾーンにあり、裏山が迫っており大雨や台風のたびに心配にな

る。「D案 森のたぁみなる（市有地）」についてもイエローゾーンに掛かるが、山から離れており、今田保育園で不安を抱えるイエローゾーンとは印象が違うものとする。ついでには、安全安心な保育環境の早期確保に向け、工期の短い「D案 森のたぁみなる（市有地）」が良いとする。「J案 辰巳グラウンド」も良い環境ではあるが、相続の手続き等に時間がかかるため、D案が良いとする。

（委員）

辰巳グラウンドは環境が良いと思うが、他の公共施設から離れているため、不審者の侵入等が心配になる。防犯のことを考えれば近くに消防署や診療所、公共施設がある安全な場所が良いと思う。送迎についても、仕事などのこともあり、スピードを出して送迎する保護者もおられ、その対策が必要になってくる。

（委員）

それぞれ短所長所があるので決めかねているが、環境の良いところ、山、川があり虫が飛ぶ、今田の自然豊かな中で子どもたちには育ててほしいと思うので、イエローゾーンから外れる辰巳グラウンドがベストと思う。保護者の送迎については、進入路が4つあるので、地域の方と話し合って地域の方の協力の下、お互い思いやりの気持ちで変えられるところがあると思うので、人間の知恵をもって考えたらよいと思う。

（委員長）

辰巳グラウンドの環境については確かに捨てがたいが、送迎に加えて登記の問題がある。

名義については、明治や大正生まれの方などが22名で、それぞれの相続関係について調べて了解を得なければならない。存命確認のほか相続関係を調べるには概ね200名ぐらいの方を調査し、了解を取らなければならず調査だけで何ヶ月もかかる。場合によっては裁判等が必要になるなど土地取得が長期化することが想定される。

（事務局）

送迎問題の前に相続問題があり、登記できないと買い取りは難しいかとする。

（委員）

そもそも、検討委員会の設置にあたっては、現在レッドゾーンにある今田幼稚園の早期移転・安全を確保することが目的であったと思う。そのことから考えると、移転に時間が掛かるのはどうかと思う。また、辰巳グラウンドは環境が良いことが大きな魅力であるが、森のたぁみなるにおいても近くにふるさと公園があり、且つ学校や診療所などの公共施設が近くにあり、環境は良いと思う。文教地区で中学校があり中学生が歩いてこども園に行くことができるD案が良いと思う。

（委員）

辰巳グラウンドの環境は良いと思うが、今のところ候補地となっているだけで、自治会内で話し合いはされておらず自治会内での合意形成が必要となる。また、文教地区として考えると、有事の際の即対応を考えると辰巳グラウンドは厳しいと思う。さらに課題となる送迎につ

いても、ルールをつくったとしても現実問題としてルールの徹底が難しいとのことであり心配する。やはり、安全面や工事期間を考えると辰巳グラウンドは難しいと考える。

(委員)

環境では辰巳グラウンドが良いと思うが、森のたぁみなるでイエローゾーンを外して園舎を配置し、砂防ダムに対する安全配慮、また歩道を広くするなど、安全面を考えていけば「D 森のたぁみなる（市有地）」で対応できると思う。

(委員)

委員の話し合いの中で、施設も大切だが、今田の今後の教育についても考え、文教地区を考慮して今田にとって何が大切かという視点をもって進められたらと思う。

(委員)

森のたぁみなる（市有地）における土砂災害の対策として、土砂が流れてくる方向に小山をつくって土砂を封じるなど、工夫すればよいと思う。また、道路と森のたぁみなるの間の法面の草刈り等、管理が大変であるため、工夫する必要があると考える。

(委員)

子どもたちも少なくなってきたことを想像すると、辰巳グラウンドで離れているよりも、森のたぁみなるで少人数になっても周りに人がいる環境の方が、保育環境として良いのではないかと思う。

(委員長)

それぞれの意見・考えを確認した。「J案 辰巳グラウンド」については、良い環境にあるが、土地の名義等、集落に話をしていかなければならず、送迎についても考えていかないといけないということではなかなか難しいのではという意見であった。一方「D案 森のたぁみなる（市有地）」については、他施設と隣接しており、防犯上安心できる、またこれからの今田の教育の在り方、文教地区として保育・教育を考えていく視点からすると適地ではないか、さらに、できるだけ早期に工事を進めていけるとの意見があった。

(委員長)

それぞれの意見からすると、「D案 森のたぁみなる（市有地）」となると思うが、「D案 森のたぁみなる（市有地）」を候補地としてよいか。

(委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、イエローゾーンを外し、それ以外に問題が生じれば検討していくという条件付きで「D案 森のたぁみなる（市有地）」を候補地とする。

(事務局)

本日の決定を受け、市議会に提案していくことになる。

開園時期については、設計に8か月、工事に8か月ぐらいかかると想定し、また、今日の



社会情勢の影響で物品が入らないことも考えて、もう少し工期を取らなければならないかもしれないが、最短で令和6年4月以降の開園になると考える。

できる限り早期に対応できるよう、市議会に提案・議決を早期にいただけるよう取り組む。令和6年4月の開園をめざして、まずは予算関係を進めていきたいと思う。

(事務局)

イエローゾーンを外しての配置や入札を考えると令和6年4月は厳しいと考える。2年半ほどかかると見込む。

(委員長)

この検討委員会は、本日で終わりではない。場所を選定してから、今後、基本的な設計とか園舎をどのようなものにしたらいいか等の検討が必要となる。

(事務局)

参考として、他のこども園で建設にかかった期間を示す。設計については、味間認定こども園で10カ月、たきこども園で8カ月半となる。建築工事においては、味間認定こども園で10カ月、たきこども園で8カ月となる。ついで、今田こども園(仮称)においては、設計8~8カ月半、工事8~9カ月を見込む。

(事務局)

検討会の次回開催にあたっては、10月の上旬から中旬に開催できればと考える。

設計業者が決定するのが9月後半で、その後保護者の意見を設計に反映させるため、在園保護者から意見を聴取する機会を設けたいと考える。保護者のご意見などを整理したうえで検討会を開催することとする。

(事務局)

次回開催日については、進捗状況を見て案内する。